

【講演要旨】

「文教都市くにたち」市制施行50周年記念

希望の社会をつくる“知”と“学び”

～国立市出身の一橋大学長・京都大学総長から次代へのメッセージ～

国立市市制施行50周年記念事業として、公民館では国立市出身の一橋大学長・京都大学総長の講演と対談のイベントを企画・実施しました。今回はその内容をまとめた講演要旨をご紹介します（2017年10月22日実施）。



第 695 号

2018年1月5日
(平成30年)

講演：^{たぬま} 蓼沼宏二（一橋大学長）
「経済学のエッセンス」

増税の問題、社会保障の問題、あるいは株や為替の変動といった世界経済の不安定な動きが、毎日のようにニュースになっていて、経済に関わるトピックは日常にあふれています。ただ、「経済」というと、何か小難しく、自分からは遠い活動のように思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで、ひとつ過去の出来事を事例として紹介しながら、経済学のエッセンスを考えてみたいと思います。

2010年8月、チリで鉱山の落盤事故があり、作業員33人が地下700メートルの坑内に閉じ込められました。すぐれたリーダーのもと、栄養係、通信係、落盤見張り係など分担をして坑内で生活を続け、69日目に全員が救出されました。

この事故から救出までの一連の出来事には、経済学のエッセンスが凝縮されています。まず、33人のグループには、ほんのわずかな食料と水しか残されていませんでした。まさに稀少な資源だったわけです。これほど極限状態でないものの、我々も実は同じ状況にあり、地球上にはたくさん資源があるように見えるけれども、全ての人間の欲求を満たすには足りない。そういう意味で資源は稀少であり、限りがあるのです。このグループの人たちは、わずかな食料を奪い合うこともなく、全員が生き延びるように分配しました。また、さまざまな作業を分担して、全員が生存するという目的のために、効率的に経済活動を組織しました。分業によって限りある資源から最大限の効果を引き出す、これは経済システムの大変重要な役割であります。

地上へ救出される際には、肉体的、精神的に弱っている者が優先されました。こういった優先権の分配、あるいは食べ物の分配で要求されるのは、「公正の原理」です。誰かの利益のためには、誰かの利益が犠牲にならなければならぬ、そういう状況でどのように分配するか。これは、規範に従って我々自身が解決していかなければいけない社会問題です。

稀少な資源を最大限有効に、分業によって活用し、それを公正に分配する。それによって、究極的に人が幸せに生きることが経済の目的でなければなりません。チリで地下700メートルの坑内に取り残された33人のグループは、このことを見事に実現したと言えます。

そして、これからの科学技術の進歩とともに未来の社会を考えたとき、経済の役割、人間の役割はどう変化していくのか、どうあるべきなのか。すぐに答えが出るよ

発行
国立市公民館
〒186-0004
国立市中1-15-1
TEL 042-572-5141
FAX 042-573-0480
休館日：毎週月曜日



子どもの頃は、よく遊び、よく本を読み…

講演：^{やまぎわ} 山極壽一（京都大学総長）
「ゴリラに学ぶ人間の本质」

なぜアフリカのジャングルまで出かけてゴリラの調査をするようになったのかというと、それは子ども時代の秘密に戻らざるを得ません。幼稚園時代から中学生の頃まで、私の遊び場は一橋大学のグラウンドでした。金網をよじ登って越境し、大学の中の全ての木を登り尽くしましたし、秘密基地をつくって、ターザンごっこやロビンソン・クルーソーごっこをよくやったものです。一橋大学ばかりでなく、クヌギ林に行つて昆虫をつかまえたり、多摩川まで行つてフナ釣りをしたり、本当に楽しい

少年時代を送りました。

そこで培ったのは、未知の世界に対する憧れです。でも私の冒険心に冷水を浴びせかけるような本と、中学時代に会います。イギリスの小説家ジョセフ・コンラッドの代表作『闇の奥』（岩波書店等）でした。アフリカの風景がぞっとするほど恐ろしく描かれていて、私の考えていたアフリカのジャングルは全く違うんだ、という印象を受けました。そこで私の冒険心は一旦、冷めるわけです。

大学は高校時代とは違って、自分で自分のことを考える余裕が持てる時期でした。京都という全く違う文化の地に行っている人な体験をしました。ある時、理学部の先輩から、サルのことを知りたいというよりも人間の本质を知りたいと考えているという話を聞き、そんな学問に関心を抱いて、師匠となる伊谷純一郎先生（京都大学名誉教授・霊長類学者）の研究室を訪ね、ゴリラを追いかける世界に入りました。そして再び、子ども時代に国立で味わった探検、冒険という野心がよみがえってきたわけです。

ところがアフリカに行ってみると、少年時代に学んだことがいかに誤解に満ちたことだったか思い知らされることになりました。たとえば、マウマウ団という恐ろ



好対照なお二人

しい集団がいて、白人をつかまえて殺す。こういう邪悪な人たちが排除して、美しい文明の国に仕立て上げることが文明世界に生きる人たちの義務だ、みたいなことが本には書かれていたわけです。そういうもんだと信じていた。しかし、いざケニアに行ってみると、マウマウ団はケニアの英雄で白人の支配から逃れるために闘争をして、その上で独立を勝ち取った、独立戦争の英雄なんです。向こう側から見たら世界も歴史もまったく変わって見える、ということを学んだわけです。それは人間だけじゃありません。ゴリラもそうです。人間がゴリラの世界に入っている、彼らと友達になつて、ゴリラのような振る舞いをして、ゴリラの行動を間近で観察する……それを続けながら、これは動物学というよりも、人類学に近いと思うようになりました。

対談 「くにたちのまちの魅力」

【司会】 知の形成において、幼少期、青年期はどういう役割を果たしたと思われませんか。

【藤沼】 子どもの頃はよく大学のグラウンドで日が暮れるまで草野球をやっていました。一方で静かな空間で本を読んだり、考え事をしたりするのが好きで、小学生の後半頃からは新聞を長い時間かけてじっくり読むようになりました。知の土台形成ということではそれが大きかったかなと思います。

【山極】 洋書を買っている本屋があったり、貸本屋もあったりしました。うちの両親も世界文学全集とかをそろえてくれたので、むさぼるように読んだ経験がありますね。

【藤沼】 箱根土地会社が計画的に大学町として開発していたタイミングに、関東大震災で一橋大学の前身、東京商大の都心の校舎が全滅するということが重なり、国立に移ってこころになったわけです。まだその頃は国立駅もなく、当時の学生は国分寺から歩いて通っていました。大学が先なのか、国立のまちが先なのか、まさに相携えながら歩んできたことが、まちの雰囲気をつくってきたんじゃないかな。

【山極】 外から見ると、国立ってやっぱり大都市ですよ。オックスフォードもケンブリッジも10万人に満たないような小さな町で、ドーンと大きな大学があって、やっぱり市民が大学を支えている、大学からも恩恵を受けているという構図がある。だから国立は、東京オリンピックのような大きな出来事によって都市が様変わりしていく、ということに、大きな影響を受けていないように思います。大学があるがために静かな環境が維持されてきた側面は、大きいのではないですか。



〈登壇者プロフィール〉

一橋大学長・藤沼宏一

1982年一橋大学経済学部卒業。1989年ロチェスター大学大学院経済学研究所修士、PhD（博士）を取得。2014年一橋大学長に就任。専門分野は理論経済学。



京都大学総長・山極壽一

1975年京都大学理学部卒業。1977年同理学研究科修士課程修了、1980年同理学研究科博士後期課程単位取得退学、理学博士。2014年京都大学総長に就任。専門は霊長類学。

学生たちからの質問 「次代へのメッセージ」

【高校生の質問】 海外での研究生活で、一番苦労したことは何ですか。海外で一番記憶に残っていることはどんなことですか。

【山極】 言葉なんかは全然苦労しません。問題は誤解なんだよね。フランス語を覚えたから、フランス語をしゃべる地域だったら、どこでもやれるんだらうっていうのは大間違いで、フランス語を同じようにしゃべるといったって、文化が違うところであれば、言葉の価値も違うし、言葉が伝える意味も違うわけです。誤解してはいけないってことです。それから、一番記憶に残っていることは、逆に向こうから誤解もされたことです。日本人だと誰でも空手ができると思われていたんです(笑)

【藤沼】 私はアメリカの大学の博士課程に留学したんですね。まず入ってから非常に授業が厳しくて、毎日膨大な課題が与えられて最初の半年ぐらいいはあつという間に過ぎました。そこでさんざん成績で挫折を味わい、また次の学期に同じようなことが繰り返され、何とか挽回しては、1年が終わるときに奨学金を切られないようにする、という生活を送っていました。その最初の2年ぐらいいの経験が後になってみると役に立ちました。経済学というのは、基礎から応用まで積み上げていく学問です。数学や統計学を使う学問です。習得しなければいけない知識、ツールというのは随分たくさんあるんですね。それを集中的に勉強できたのは、研究者として自立するためにとても有益でした。苦労はしましたが、異国での5年間の自炊生活で人としても鍛えられました。

嬉しかったのは、そうやって自分が異国に飛び込んでいって、あるときに、人間はみんな共通なんだということを感じられたことです。しゃべっている言葉は違っても、人種が違っていても、同じようなことに喜んで、同じようなことに悲しむ。人間が持っている感性や理性、それがある瞬間に、やはり共通なんだと感じられたことです。

【大学生の質問】 いろんな問題について私たちが考えなくてはいいくない中で、人間社会の本質を示唆してくれるような本があれば、先生たちの専門分野からそれぞれ教えてください。

【山極】 最近出た本で、『動物になつて生きてみた』（チャールズ・フォスター著、河出書房新社）という本があるんですよ。これ、すごくおもしろい。彼はカワウソとか、アマツバメとか、人間とは全然感覚の違う動物になってみるんです。何か月も穴蔵でミミズを食べて過こしたり。それで動物の生理、生態環境を身にかけて、結局、人間って、これほど自然とかけ離れてしまった存在だったんだということに気がついていきます。あまり内容は言いませんので、読んでみてください。

【藤沼】 残念ながら経済学の本って大体おもしろくないです(笑)。経済学者が書いた本というところで許してもらおうと、ジョン・スチュアート・ミルの『自由論』（光文社）をご紹介します。人間は必ず間違いを犯す、その間違いを正す方法は他者との対話だと言っているんですね。他者との対話を通じて、自分の過ちに気づき、そして自分自身が修正されていく。そのためにこそ言論の自由が必要だという議論が印象に残っています。

これだけ大きな変化を迎える時代になると、人間の判断は必ず間違えることがあると思います。ですから、そのときに必ず、違う体系を持つている他者との直接的対話を持っている必要になってくると思います。そのために、自由の価値、自由の重要性を知るために、ぜひ読んでいただきたいと思っています。

【中学生の質問】 夢を叶えるためにどのような行動をし、どのように努力をされましたか。また、どのような視点で勉強したらよいでしょうか。これからの時代、どんな視点が求められますか。

【藤沼】 自分の好きなように、自由に生きる、あまり束縛されないうで自由に思索し、生きるというのが私の一つの夢でありました。その中で研究者というものに憧れました。よく考えを深めて、何をすべきかを悩みながら生きてきたのだと思います。

【山極】 ひねくれているようですが、夢は持って、しかし夢は忘れろっていうことです。つまり、たくさん夢を持ってほしい。一つの夢に執着し過ぎると、考えが狭くなってしまいます。一旦忘れないと、違う視点を持てない。だから、いろんな夢を持っていいんです。その夢を持ちながら、その夢の周辺を執拗に探す。夢が簡単に実現したら夢じゃなくなっちゃうんだよ。だから、夢は持って、だけ忘れろ。それが自由な視点を持つということ。それから、何でもいから向こう側の世界にまずは行ってみるということです。そのときに重要なことは、頭で考えるのではなくて、身体で考えるってことです。文化というのは身体に染みつくものですが、頭の中にくら文化を入れても、それはすぐ消えてしまいます。向こう側の世界に行つて、今自分が生きている世界を見つめてほしい。行つてこの目で確かめることが重要なんです。

〈社会教育学習会〉

どうなる? 「社会教育」

～社会教育法・生涯学習政策のあゆみと
文部科学省2018年機構改革の行方～

講師 長澤 成次

(千葉大学名誉教授・日本社会教育学会会長)

現在、文部科学省では2018年の機構改革によって、「生涯学習政策局」が「総合教育政策局」に変更され、また「社会教育課」と「青少年教育課」が「地域学習推進課」へと統合されるなど、大きな組織再編が予定されています。

日本の公民館や図書館は、教育基本法、社会教育法、図書館法に基づき全国に設置されていますが、これらの法律に条項のない「地域学習」への統合は何を意味するのか。国際的に生涯学習の政策が重要課題になっている今日、「生涯学習政策局」が廃止されるのはなぜなのか。

今回は、有識者にこうした動向の背景などについてお話を伺うとともに、社会教育や生涯学習の本質をどう理解し、地域で活かしていったらよいか、みなさんと考えます。

とき 2月8日(木)夜7時～9時

ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(当日先着順)

*申込み不要です。ご自由にお越しください。

国立市公民館・NHK学園高等学校共催 子ども・若者を支える「つながりワークショップ」

子どもの育ち、若者の自立を支援する地域の活動や団体の取り組みについて学びあい、「つながり」をつくる連続ワークショップです。今回は富士見台商店街の中にあるシェアハウス「コトナハウス」と西地域で子ども朝ごはん活動等を行う「Jikka」の取り組みに学びます。後半はワークショップでいま取り組んでいる社会資源マップづくりについて話し合います。

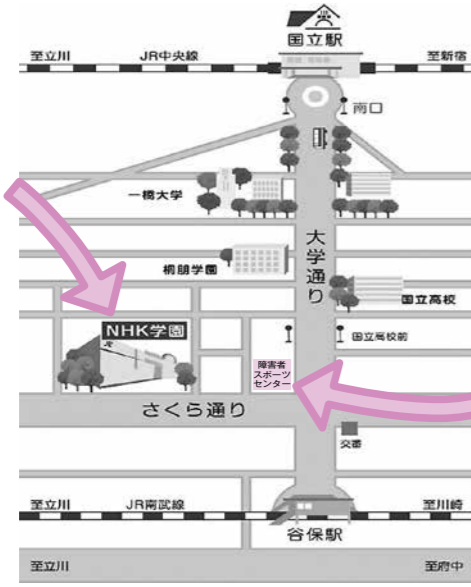
お話し 「コトナハウス」、「Jikka」の取り組み

とき 1月29日(月)夜7時～9時

ところ NHK学園高等学校 2階音楽室

申込先 公民館 ☎(572) 5141

*NHK学園高等学校へのアクセス
国立駅南口から徒歩約18分、
バス(4番のりば乗車)約5分「国立高校前」下車。
谷保駅から徒歩約8分。



〈憲法講座〉

日本の議会制民主主義の「いま」

～国会と私たち主権者～

講師 只野 雅人 (一橋大学)

組織的犯罪処罰法の改正、突然の衆議院解散、野党第一党の解体など、この1年の日本の議会制民主主義をめぐる様々な事態が生じてきました。圧倒的議席数の与党と分裂した野党という構図のもとで、政治から緊張感が失われる懸念なども指摘されています。

いま、日本の議会制民主主義は何が問題で、なぜそうした状況が生まれているのでしょうか。日本における議会制民主主義の歴史や他国との比較も交えながら私たちはどう向き合うべきなのか考えてみたいと思います。

とき 1月28日(日)、2月24日(土) 全2回

いずれも昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(申込先着順)

申込先 1月11日(木)朝9時～

公民館 ☎(572) 5141

〈バラスポーツ体験講座 第4弾〉

ゴルフボールをやってみよう!

～東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて～

講師 高田 朋枝

(ゴルフボール選手、日本パラリンピアンズ協会理事)

コーディネーター 川田 幸生 (一橋大学大学院生)

「ゴルフボール」を知っていますか? アイシェード(目隠し)を着用したプレーヤー同士が、コート内で鈴入りのボールを転がすように投球し合い、相手ゴールを狙います。パラリンピックの視覚しょうがいしゃの正式種目で、視覚しょうがいのあるなしに関わらず参加できるスポーツです。今回は北京オリンピックのゴルフボール日本代表を経験された高田さんに、その魅力を教えていただき、実際に競技を体験します。ぜひお気軽にご参加ください。

とき・ところ 第1回 2月4日(日)昼3時～5時

公民館 地下ホール

第2回 2月24日(土)昼3時～5時

東京都多摩障害者スポーツセンター

定員 20名(申込先着順)

持ち物 体育館靴、動きやすい服装、タオル、飲み物など

申込先 1月12日(金)朝9時～

公民館 ☎(572) 5141

✉ sec_kominkan@city.kunitachi.lg.jp

第2回の会場はこちら

詳しいアクセスは
<http://tsad-portal.com/tamaspo/access/map>



メール作成画面になります。
申し込みはこちらから

〈図書室のつどい〉

「カラスの教科書」

お話し 松原 始 (東京大学総合研究博物館)

カラスのこと、何だか怖いって思いませんか? それはもしかしたら勘違いで、カラスのことをよく知らないからなのかもしれません。身近な鳥の代表とも言えるのに……。

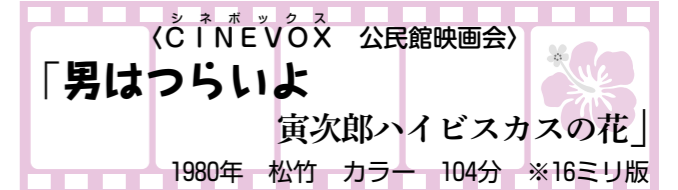
カラスはマヨラー(マヨネーズが好き)で生野菜が苦手です。外でよく見かけるカラス、実は2種類います。カラスのカップルはとても仲が良く、リア充(実生活が豊か)です。と、カラスのこと少し気になってきませんか?

研究テーマはカラスの生態、行動と進化。カラスに燃え、カラスに萌えるカラス馬鹿一代を自称している松原さんのお話を聞いた後、街中でカラスを見かけたら、何となくカラスが嫌いだった方も立ち止まって観察を始めてしまうかもしれません。

とき 1月19日(金)夜7時～9時

ところ 公民館 地下ホール 定員 60名(当日先着順)

*申し込みは不要です。ご自由においでください。



監督 山田洋次 音楽 山本直純

出演 渥美清、浅丘ルリ子、倍賞千恵子、江藤潤、下條正巳、三崎千恵子、前田吟、笠智衆、太宰久雄 ほか

映画会恒例、年始のお楽しみ、ご存知『男はつらいよ』シリーズ。今回は、寅さんファンに絶大な人気を誇るルリ子さん(浅丘ルリ子)の3度目の登場が話題を呼んだ人気作、第25作『寅次郎ハイビスカスの花』です!

なんと寅さんとルリ子さんが沖縄で同棲!? 沖縄の青い海と空、灼熱の太陽の下、ふたりの恋の行方は?

「あんまり海が青くて 空が澄んでたんで
俺とルリ子は つい 夢を見たのよ……」



とき 1月28日(日)昼2時～(開場1時)

ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)

*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈くにたちブッククラブ 世界の軌跡音を聞く〉

佐伯一麦『ショート・サーキット』

(『ショート・サーキット』所収、講談社文芸文庫)

講師 大野 亮司 (亜細亜大学・日本近代文学)

とき 1月18日(木)夜7時半～9時半

ところ 公民館 3階講座室

申込先 公民館 ☎(572) 5141

*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が読み出しあい、講師のお話を聞きます。

〈公民館・KUNIBO くにたち地域外国人のための防災連絡会 共催講座〉

気象庁の情報を使って 災害から身を守ろう

講師 気象庁東京管区気象台職員

近年、気象による災害規模は予想を超えることが多くなっています。そうした中、早い時期に正確な情報を得ることは、とても大事なことだといえます。局地豪雨や竜巻注意情報など、気象庁から発信される情報の見方や活用方法を知り、対策をとることで災害に備える知恵を学びます。

お子さんとご一緒でもご参加いただけます。市民グループ「まめっちょ」が工作遊びをしてくれます。お気軽にお越しください。

日時 1月26日(金)朝10時～12時

定員 50名(申込先着順)

ところ 公民館 地下ホール

申込先 1月9日(火)朝9時～

公民館 ☎(572) 5141

〈親子で遊ぼう・考えよう〉

新聞紙でピラミッドづくり &新聞紙ドームに入ろう!

講師 山田 修平

(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

丸めた新聞紙の棒を組み合わせて、大きなピラミッドを作ります。自分よりも大きな作品を作る経験は、大人も子どももワクワクします。親子で協力して天井を目指します。また、新聞紙でできたドームの中に入る体験もします。新聞紙だけの不思議な空間を楽しみましょう。

とき 1月28日(日)朝10時～12時

ところ 公民館 地下ホール

持ち物 動きやすい服装、ハンドタオル、飲み物

対象・定員 子ども(4歳以上～小学生)と保護者

18組(申込先着順)

申込先 1月10日(水)朝9時～

公民館 ☎(572) 5141

本格的な冬の到来
和賀 一 (西)



発声の基礎を音楽科出身の先生の指導で学びながら、楽しく歌っている女声合唱です。ア・カペラで、色々なジャンルの曲を演奏しませんか。一月は新曲練習開始!!
日時 毎週(金)昼1時又は朝10時
場所 公民館 地下ホール
連絡先 重見(576) 4557

国立あひるグループ 会員募集



ひるろぼ (8ページにもあります)

一会場調整会 日程のお知らせ

公民館の会場をより多くの団体が利用できるよう、会場調整の場を設けています。

3月～7月(ロビーは4月～8月)の利用希望は以下を参照し、調整会へご参加ください。

■今後の会場調整会日程

使用希望月	ロビー使用希望月	申込書のポスト投入期間	会場調整会
30年3月	30年4月	1月6日(土)～2月1日(木)	2月3日(土) 午前10時
30年4月	30年5月	2月3日(土)～3月1日(木)	3月3日(土) 午前10時
30年5月	30年6月	3月3日(土)～4月5日(木)	4月7日(土) 午前10時
30年6月	30年7月	4月7日(土)～4月26日(木)	4月28日(土) 午前10時
30年7月	30年8月	5月5日(土)～5月31日(木)	6月2日(土) 午前10時

*6月分(ロビーは7月分)については、祝日の関係で日程が早まっています。ご注意ください。

(社会体育事業)

「街を・山を歩く」第3回

平成30年1月26日(金) <雨天中止>
国立駅北口 朝9時
実施方面 国分寺市方面(距離:約12キロ 高低差なし)
対象 市内在住、在勤者 *ウォーキング初心者向け
チラシ 1月5日(金)から市役所3階生涯学習課、総合体育館、公民館、北・南市民プラザで配布
申込方法 チラシの内容を確認のうえ、1月9日(火)から15日(月)の期間に下記までお申し込みください。
問合せ 生涯学習課社会体育担当 ☎(576) 2107 (直通)

フィットサルチームFCラスタフ

市内で活動中のミックスエンジョイチームです。40代中心ですが、20代後半～50代の構成です。性別不問、特に40代後半、50代と一緒に時間を楽しくする方歓迎
日時 毎週土曜日 昼3時～6時
場所 市内小学校 体育館
連絡先 亀川(090-2252) 2443

社交ダンス講座 社交ダンス絆

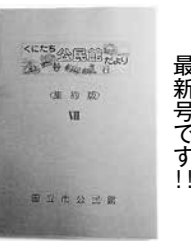
楽しく健康的な社交ダンスを学んでみませんか。種目はタンゴとチャチャチャ。公認プロ講師、女性講師はプロA級、元アマチュアチャンピオン 一回600円のみ
日時 1月12、19、26日(金) 昼12時
場所 ひかりプラザ
連絡先 桜井(090-5359) 4846

公民館のQ & A

このコーナーでは公民館について一問一答形式で紹介していきます。今回はみなさんが今読んでいる「くにたち公民館だより」についてです。

- Q. 「くにたち公民館だより」はいつから発行されていますか?
A. 1951(昭和31)年6月発行の第1号から現在で695号になり、もうすぐ700号を迎えます。
- Q. どんな内容が書いてありますか?
A. 公民館事業に関すること、講座の案内、市民グループの活動紹介をはじめ、学習資料として活用できるよう、実施した講座の講演要旨や参加者の声を掲載しています。その他、市内で活動する市民グループの会員募集やイベント情報を掲載したひろば欄、生涯学習課主催の社会体育事業の案内等の記事もあります。
- Q. どうやって編集していますか?
A. 公民館だより編集研究委員会では発行された毎号の公民館だよりへのご意見をいただき、公民館職員がその意見を次号以降に反映させながら編集しています。公民館だより編集研究委員会は、ボランティアで関わっている8名の市民で構成され、毎月公民館だよりのレイアウト等に関して意見交換を行っています。

- Q. どこで入手できますか?
A. 全戸配布されていますので、毎月5日発行の市報と共に、ご自宅にお届けしています。また公民館をはじめ、市内各施設や、谷保駅、矢川駅をご利用の方は駅構内の設置場所ですべてご覧になれます。国立市公民館のホームページからPDFでご覧いただけます。
- Q. 過去に発行されたものは読めますか?
A. 過去1年間ぐらいであれば、発行されたものを受付でお渡しできます。数年分のバックナンバーはホームページに載せています。また、5年分を集約版として発行しており、公民館や中央図書館で所蔵しています。今年度、2010(平成22)年度から2014(平成26)年度分の集約版を作りました。閲覧用に図書室で用意しています。ぜひご覧ください。



最新号です!!

公民館をキレイにしよう! でキレイになりました!

会場調整会や館内ポスターで呼び掛けた「公民館をキレイにしよう!」10月2日(月)午後、市民と職員総勢24名で階段手すりや裏口正面扉のペンキ塗り、和室の障子張りや押入れの整理を行いました。明るく、使いやすいになりました。



障子が新しいと気持ち良いですね。

- 呼び掛け
- ・第62回くにたち市民文化祭実行委員会
 - ・公民館利用者連絡会
 - ・KUNIBO くにたち地域外国人のための防災連絡会



入口が明るくなりました!

さらに、公民館入口をみどり色にリニューアルしました。「国立市公民館」の文字がはっきり見えるようになりました。

思春期・青年期の親子の付き合い方

～社会との接続をスムーズにするコミュニケーション～

親子のコミュニケーションや不登校などの課題解決のために、親が実践できることを考えます。参加申込不要。
*夜6時半からNHK学園の見学会、終了後に希望者には個別相談を実施します。個別相談希望者は1月12日(金)までに児童青少年課 ☎(576) 2111 (代) 内線198)までお申込ください。

講師 轟田 薫 (認定NPO法人育て上げネット、産業カウンセラー)
とき 1月16日(火) 夜6時半～8時半
ところ NHK学園高等学校 2階音楽室(富士見台2-36-2)

ひきこもり大学 家族学部 in くにたち

～ひきこもり家族会活動から考えるひきこもりの対応について～
ひきこもり当事者の親が語る父親学科、母親学科、対話交流会などを通じて体験や想いを共有します。

講師 不登校・ひきこもり家族会 NPO法人 楽の会リーラ
とき 2月11日(日・祝) 昼1時20分～5時
ところ くにたち福祉会館 4階大ホール
*申込不要。問い合わせは国立市社会福祉協議会まで。

公民館運営審議会報告

12月12日(火) 第14回定例会を開催。委員15名、館長、職員2名出席。傍聴者2名。
前会議事録確認
報告事項
○公民館だより編集研究委員会
11月号掲載の社会教育実習生による企画講座「みんなであつくりウチごはん」は参加者も多く好評。継続を希望する声があがった。12月号は視覚的にわかりづらい紙面レイアウトが指摘された。
○社会教育委員の会
11月27日(月) 第7回定例会を開催。先進的取り組みとして、アニュアルレポートについては立川市子ども未来センターの事例、ソーシャルメディアの活用については八王子市の事例が紹介された。
○東京都公民館連絡協議会
都公連委員部会では、公民館の今後あるべき姿を研究する必要との問題提起と今後の対応の提案があった。また、各市との活動状況の情報交換内容が示された。

協議事項
1月7日(日)に開催する「ふりかえる会」のプログラムが世話人会より提案され、具体的な進め方を詳細に検討。また、参加者も多く募るためのチラシの内容、表裏についても意見が出された。

その他
国立市公民館の職員体制の充実を求める要望書案が委員長より提案され、協議、確認がなされた。
次回定例会は1月9日(火) 夜7時15分から。傍聴歓迎。(宮脇)

心理学講座を企画して

みんな頭の中で何を考えているのだろう——心理学は、科学的根拠に基づき人間の心を研究する学問です。日頃学ばない心理学に触れることで、いつもと違う視点から自分自身や周りの人のことを見れるのではないかと、そんな思いから新しい講座を企画しました。
昨年度は実験心理学の主な4分野(生物心理学、認知神経科学、発達心理学、感性心理学)から人間の心を探る連続講座を行い、今年度は心を脳機能で捉える認知神経科学から、感情や記憶の不思議を探る講座を行いました。62名もの参加があり、最新研究だけではなく、心理学の実験で使われる認知や記憶のテストの体験もありました。講師の梅田聡先生(慶應義塾大学教授)のお話では、「悲しいから泣くのではなく、泣くから悲しい(ジェームズ・ランゲ説)」と「記憶は真実ではなく、自分が信じているだけのもの、信念である」が腑に落ち、心に残ったという感想が多く見られました。
心理学で解き明かされる人間の不思議が少しわかることで、いつもよりちょっと前向きになれる……と感じた講演でした。(S・E)

今月の公民館 (1月、2月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 18日(木)夜 くになちブッククラブ
佐伯一麦『ショート・サーキット』
- 19日(金)夜 *図書室のつどい「カラスの教科書」
- 26日(金)朝 気象庁の情報を使って
災害から身を守ろう
- 28日(日)朝 親子で遊ぼう・考えよう
新聞紙でピラミッドづくり&新聞紙ドームに入ろう!
- 28日(日)昼 *CINEVOX公民館映画会
『男はつらいよ 寅次郎ハイビスカスの花』
- 28日(日)昼~憲法講座
日本の議会制民主主義の「いま」
- 29日(月)夜 子ども・若者を支える
“つながり”ワークショップ
- 2月4日(日)昼~パラスポーツ体験講座 第4弾
ゴールボールをやってみよう!
- 8日(木)夜 *社会教育学習会
どうなる? 「社会教育」

ひろば

(7ページにもあります)



紙レスコ絵画制作講座

全4回で小品3点を作る美術サークル「わ」主催の講座です。講師は内外で活躍の美術作家・鈴蘭先生です。先着10名、有料の講座です。

日時 1月20日~2月10日(土)午後
場所 公民館 講座室など
連絡先 小宮090(4027) 6974

ハレルヤ合唱講座

ヘンデルのメサイアより、ハレルヤコーラスとアーメンコーラスを楽しく練習する合唱講座。市民合唱団石原による丁寧な指導。初めての方もご遠慮なく。費用700円。
日時 2月3日(土)夜6時~9時
場所 芸小ホール スタジオ
連絡先 川上080(6602) 7834

喫茶「わいがや」スタッフ急募

公民館内の喫茶「わいがや」では、20~50代の主婦の方など、平日(12~18時)の有償ボランティアスタッフを募集しています。しょうがいしゃや若者たちの喫茶店運営をサポートしませんか。

連絡先 入山080(6091) 4660
huziuzhianno@yahoo.co.jp

市民交流ロビー 利用制限のお知らせ

公民館では、1階から市民交流ロビーへ降りるための段差解消機の入替工事を今月実施します。工事終了予定の2月末まで、市民交流ロビーではグループでの展示および交流スペースとしての利用ができなくなります。利用者の皆さんにはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

詳細については公民館までお問い合わせください。

「ひろば」欄投稿規定

市内の団体・グループ活動のお知らせの場です。原稿の締切りは、掲載希望の前月7日の午後5時です(7日が月曜日の場合は、翌日の8日まで)。原則として掲載月の7日から翌月6日までのお知らせを掲載します。公民館備付けの原稿用紙に団体名・サークル名を含めてお書きください。氏名にはふりがなをふつてください。

「ひろば」写真募集

国立の風景や行事、自然などの写真を募集しています。ご協力いただける方は公民館までご連絡ください。
公民館 ☎(572) 5141

中国語会話サークル

〈サークル訪問316〉

静かな部屋に、先生がテキストを読む声がひびく。中国語会話をサークルの活動は、とてもまじめな雰囲気の中で行なわれていた。テキストにある中国語の単語を、先生に続いて発音する。「意味のわからない単語はありますか?」

先生が聞くと、多くの質問が出た。質問を通じて、日本と中国の文化の違いを学ぶこともあるようだ。

チャン先生は単語にある文字のニュアンスまで細かく説明してくださる。参加者の皆さんはテキストに一生懸命それを書き込んでいた。発音の微妙なところは繰り返して練習をしたり、一人一文ずつテキストの文章を和訳して、間違いを指摘してもらったりする。一通りテキストを読み終わると、その日に履修した部分をもう一度通して読み、先生から中国語でされた質問に中国語で答える。かなり本格的な中国語の学習だが、先生は終始優しい口調で参加者の皆さんもとても楽しそうだった。

とてもはつきりとした発音をさされていたので、中国語を学ぶのが初めての方ばかりと聞いて驚いた。「わからない人同士で学ぶから、

分かるようになると快感」だそう。中国語の発音は日本語にはないものが多く難しいが、漢字には親しみがあるため、西洋の言語よりは覚えやすいという方が多かった。活動に参加した目的はそれぞれだが、「中国語人口はとも多、覚えると世界中に友達が増えるから」という方がいらっしやうて、素敵だなと感じた。

活動は七年ほど前から、週に一回行っている。テキストを使用して学習しているが、予習や復習の必要はないそうだ。いつでも新メンバーを募集しているとのことなので、中国語に興味のある方はぜひ参加してみてほしい。

日時 毎週金曜日 夜7時~
場所 国立市公民館
連絡先 和泉090(7943) 4303

〈文・写真 原田 千智〉



まじめに楽しく本格派!